

(1) 持続的な企業価値向上に向けて

代表取締役社長

北島 義斉

(2) セグメント戦略

専務執行役員

土屋 充

(3) 成長牽引事業

光学フィルム メタルマスク

執行役員

富澤 伸行

フォトマスク ガラスコア

執行役員

中西 稔

バッテリーパウチ

常務執行役員

飯田 満

(4) 新規事業

メディカル・ヘルスケア関連

専務執行役員

杉本 登志樹

コンテンツ・XRコミュニケーション関連

常務執行役員

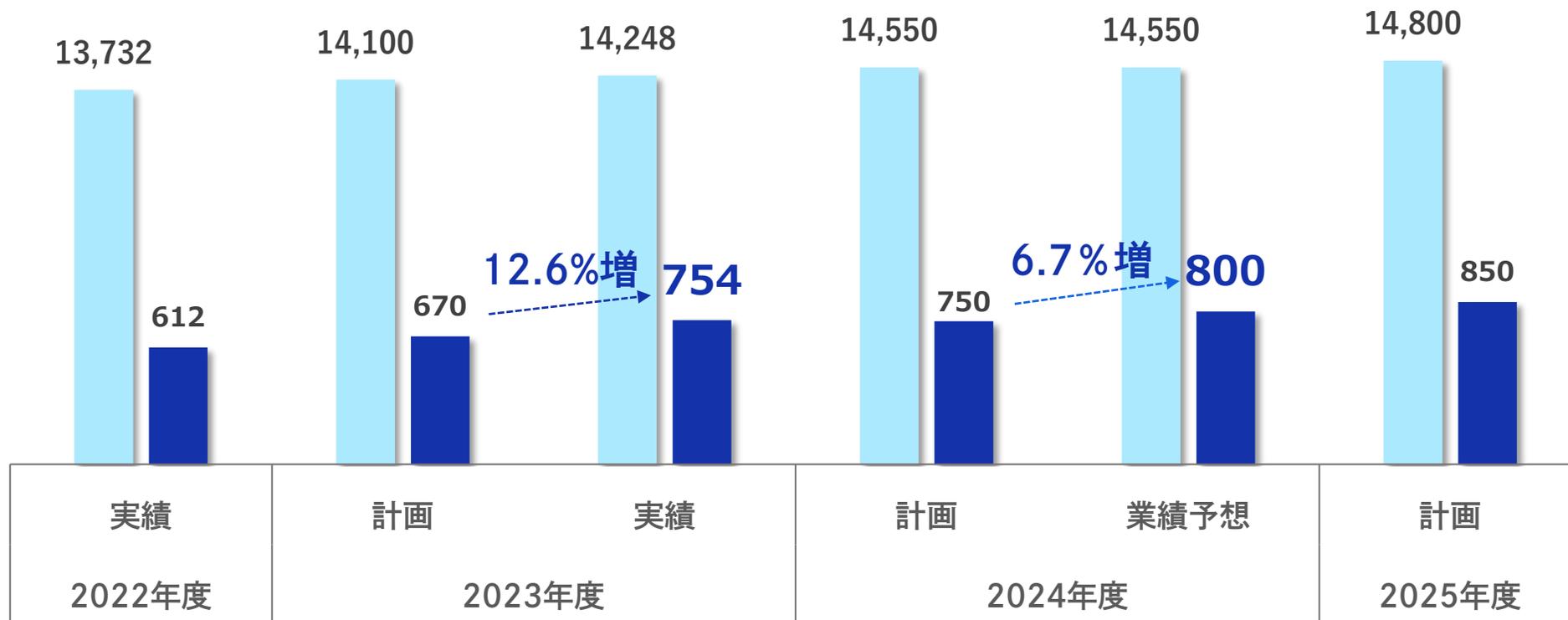
浅羽 信行

2023年度通期決算概要 -売上高と営業利益-



単位：億円

■ 売上高 ■ 営業利益



ROE

7.9%

8.3%

9.8%

資産売却も含め、8%以上を達成

PBR

0.9倍

1.0倍

中期経営計画【注力事業領域等への投資状況】

成長投資・基盤構築投資

3,900億円以上 (2023~27年度の5年間)

注力事業領域を中心とした設備投資、グローバル拡大、外部とのアライアンスの検討を推進する。

2023~27年度

2023年度の主な投資

注力事業領域
及び
成長投資

2,600億円
以上



事業
投資

- SCIVAX社との資本業務提携及び共同出資によるナノインプリントの量産化
- シミックホールディングス社とメディカルヘルスケア分野における戦略的提携及びシミックCMO社の子会社化
- XR・ブレインテック事業を展開するハコスコ社をグループ会社化
- 量子コンピューターのソフト開発のエー・スター・クオンタム社と資本業務提携
- 素材分析を手掛けるUBE科学分析センター (USAL) 社を連結子会社化

設備
投資

- 広島県・三原東工場にメタルマスク用大型エッチング製品検証設備導入
- 福岡県・黒崎工場に大型メタルマスクの生産ラインを新設中
- ディー・ティー・ファインエレクトロニクス北上工場 (岩手県) にフォトマスク生産ラインを増強
- 埼玉県・上福岡工場にミドルエンドフォトマスクの生産ラインを増強など

実績
503億円

(前年:323億円)

基盤投資
(設備更新等も含む)

基盤構築投資
その他
1,300億円
以上



設備
投資

- 間接材購買システムの導入による業務効率化とコスト削減を実現
- 情報セキュア関連や包装戦略製品などの競争力を強化

実績
340億円

(前年:466億円)

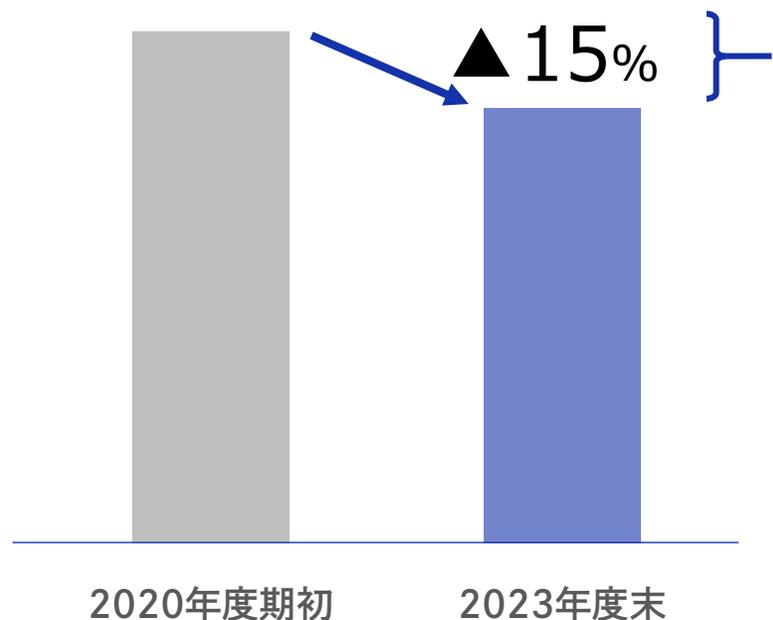
経営資源の再配置（2020～2023年度）

既存印刷関連からリスキングを実施の上、主に成長分野への再配置



製造拠点再編により収益改善に注力

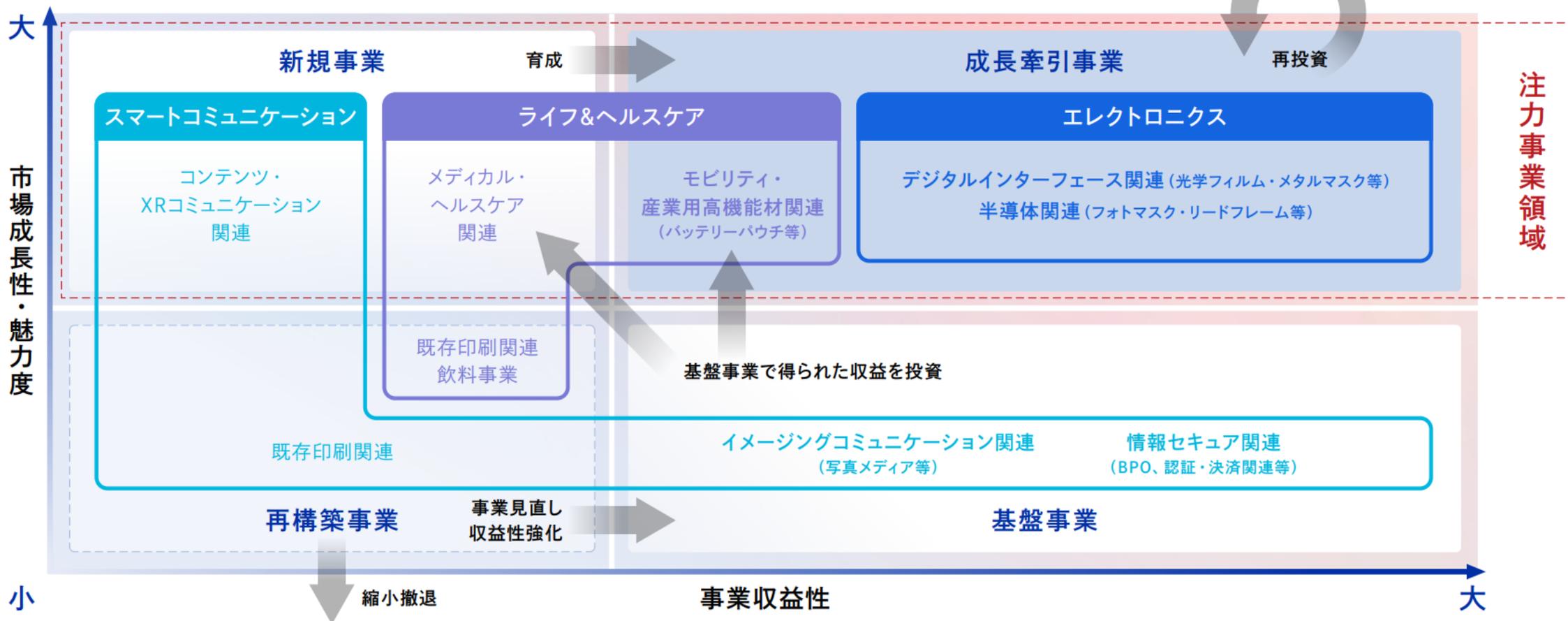
拠点再編や工場の閉鎖・売却を行い既存印刷関連の構造改革を推進



製造拠点については、
4年間で約15%の圧縮

その資産売却により
200億円超のキャッシュを創出

事業ポートフォリオと各セグメントの位置づけ

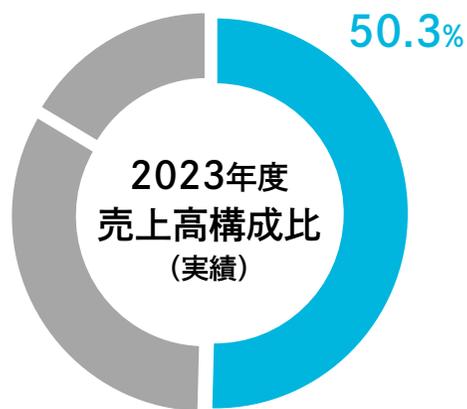


成長牽引事業・新規事業からなる注力事業領域への集中投資と事業構造改革を推進し、
事業環境の変化に対して強い事業ポートフォリオの構築を目指す

【スマートコミュニケーション部門】①事業内容



DNP



2023年度実績

売上高： 7,194億円

営業利益： 261億円

営業利益率： 3.6%

() 内は売上高

イメージングコミュニケーション関連 (約1,050億円)



マーケティング関連 (約1,300億円)



新規事業/その他 (約220億円)



情報セキュア関連 (約2,080億円)



出版関連 (約2,550億円)



【スマートコミュニケーション部門】②市場環境



DNP

主な事業		市場トレンド		市場の見通し※1 (CAGR)
イメージング コミュニケーション関連	写真プリント用 昇華型熱転写 記録材		<ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナ影響により20年度に需要減少も、21年度以降回復 ・銀塩方式からの切替により写真プリント用昇華型熱転写記録材含むドライ方式は増加 	+4% (22~27年)
情報セキュア 関連	BPO		<ul style="list-style-type: none"> ・労働力や人材不足による働き方改革やDX推進を背景に、市場拡大が見込まれる ・人による業務とデジタル技術を組み合わせたサービスの必要性が増加 	+3% (24~27年)
	ICカード		<ul style="list-style-type: none"> ・QRコード決済の浸透などによりキャッシュレス決済比率は35%以上まで伸長も、カード決済が80%超を占めており、キャッシュレス化の中心的存在となっている 	+1% (22~26年)
マーケティング関連	-		<ul style="list-style-type: none"> ・紙媒体の市場規模は1.7兆円と依然として大きいものの、デジタル化の進行により緩やかな縮小トレンドが続く。デジタルマーケティング市場は引き続き拡大 	紙媒体：▲1.5% (23年対22年)
出版関連	雑誌・書籍		<ul style="list-style-type: none"> ・雑誌、書籍とも紙媒体においては市場縮小が続く見通し ・ネット書店および電子書籍市場は成長 	紙媒体：▲5% (23~28年)
新規事業	コンテンツ・XR コミュニケーション 関連		<ul style="list-style-type: none"> ・日本由来のマンガ・アニメ・ゲームの海外需要が拡大するほか、商品・サービスなどのコンテンツ展開市場が活況 ・XRの非日常領域での需要に加え、教育・トレーニングなど各業態への利活用が増加 	拡大基調

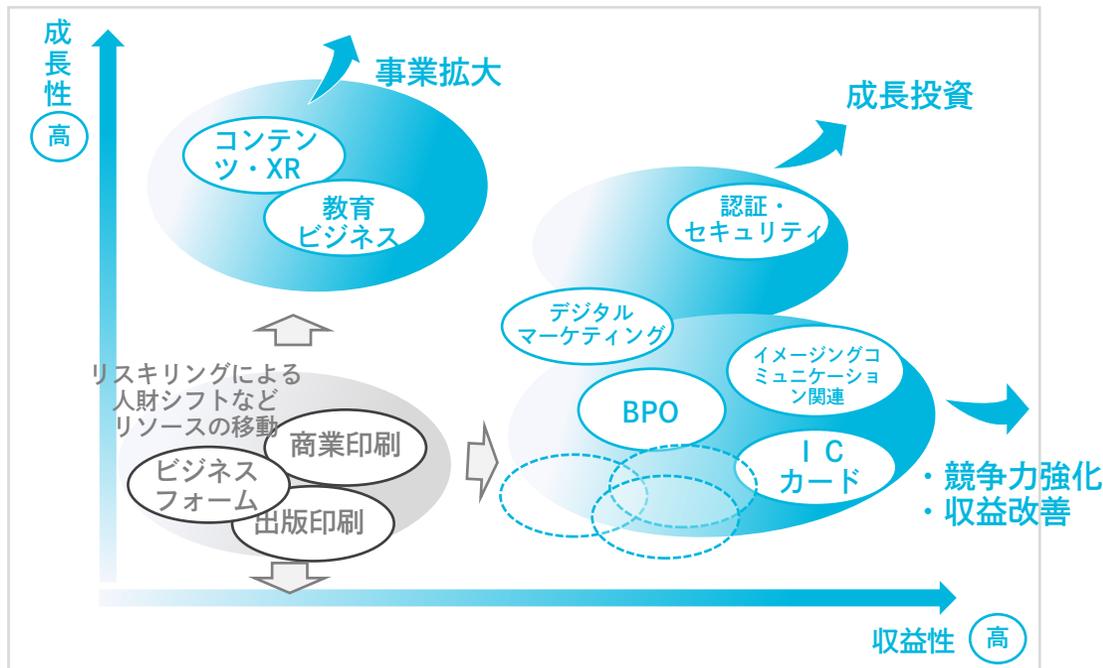
※1 市場の見通しは各種調査をもとにした当社予測

【スマートコミュニケーション部門】③セグメント戦略

■主な事業の戦略

主な事業セグメント		戦略
イメージング コミュニケーション 関連	写真プリント用 昇華型熱転写 記録材	地域特性に即した用途の開発と拡販により世界シェア70%以上を目指す
	IDカード用 インクリボン	新興国の国民ID証需要を取り込み、IDカード用昇華リボンの世界シェア70%を目指す
情報セキュア 関連	BPO	一部業務のアウトソーシングから、デジタル化を伴う業務改革や変革支援まで領域を拡大
	ICカード	環境配慮製品など高付加価値製品を拡充し、競争力を強化することで国内トップシェアを維持
新規事業	コンテンツ・XR コミュニケーション 関連	情報加工・変換技術を応用しIPのコンテンツ展開を国内外で加速。地域、企業の課題解決に応じたXRコミュニケーション®の共通サービスを開発・実装

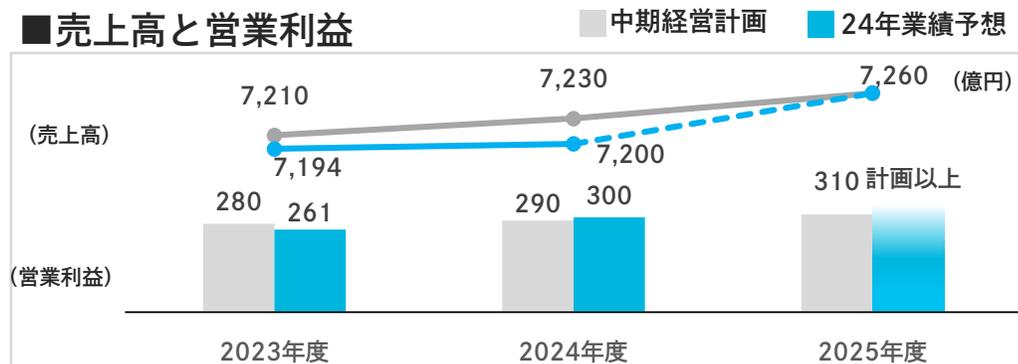
■ポートフォリオの進化イメージ



✓世界シェアNo.1の昇華型熱転写記録材の新興国等への展開や、国内シェアNo.1のICカードの競争力強化と収益改善を中心に利益の底上げを図る

✓紙媒体の印刷物は市場縮小が予想されるため、リスクリングによる成長事業、基盤事業への人財シフトや製造拠点の再編など資産の適正化を実施

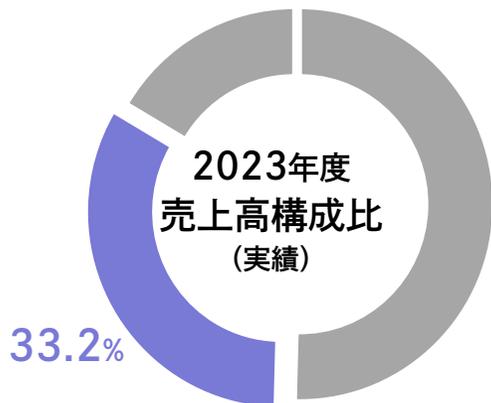
■売上高と営業利益



【ライフ & ヘルスケア部門】 ①事業内容



DNP



2023年度実績

売上高： 4,723億円

営業利益： 133億円

営業利益率： 2.8%

() 内は売上高

モビリティ・産業
用高機能材関連 (約750億円)

バッテリー
パウチ



リチウムイオン電池用パウチ

太陽電池
関連



加飾
フィルム



メディカル・
ヘルスケア関連 (約420億円)

製薬事業



医療品医薬品
用包装



包装関連 (約2,300億円)

充填
システム



機能性包材



生活空間関連 (約620億円)

内装材



外装材



飲料事業 (約560億円)



その他 (約70億円)

【ライフ & ヘルスケア部門】 ②市場環境



DNP

主な事業セグメント		市場トレンド		市場の見通し※1 (CAGR)
モビリティ・ 産業用 高機能材 関連	バッテリー パウチ	↗	・中長期で自動車の電動化がすすむトレンドは変わらず、今後の自動車メーカーの電池製造内製化（パウチタイプ）に伴い米国中心に需要増加を見込む	電動車：+13%※2 (23～30年)
	太陽電池 関連	↗	・グローバルの太陽光発電システム市場は2020年から2030年にかけて2.5倍に伸長 ・米国、EU、中国で政策的取り組みなども背景に需要が拡大	世界発電システム市場： +10% (20～30年)
	自動車用 加飾フィルム	↗	・内外装とも高意匠品が伸長するなか、特に塗装代替用途の外装フィルム拡大に期待	拡大基調
メディカル・ ヘルスケア関連	-	↗	・医薬品世界市場規模は2018年：141兆円から2030年：196兆円まで拡大すると予想されるなど、安定的な成長が期待	医薬品世界市場 +2.8% (18～30年)
包装関連	-	↗	・軟包装の世界市場は伸長しており（2023年：約40兆円）、今後アジア市場/環境配慮製品の伸びが見込まれる	軟包装世界市場： +4.7% (24～30年)
生活空間関連	-	→	・国内住宅着工件数は減少傾向が続く見通し ・海外は足元では需要低迷も、中長期では人口増加に伴い成長が持続	国内：▲1% (24～28年) 海外：+3% (23-29年)
飲料事業	-	→	・コロナ禍を経て全体の景況は回復し、インバウンドも含め需要は堅調に推移	+1～2% (24～26年)

※1 市場の見通しは各種調査をもとにした当社予測

※2 EV/PHEV/HEVの合計

【ライフ＆ヘルスケア部門】③セグメント戦略

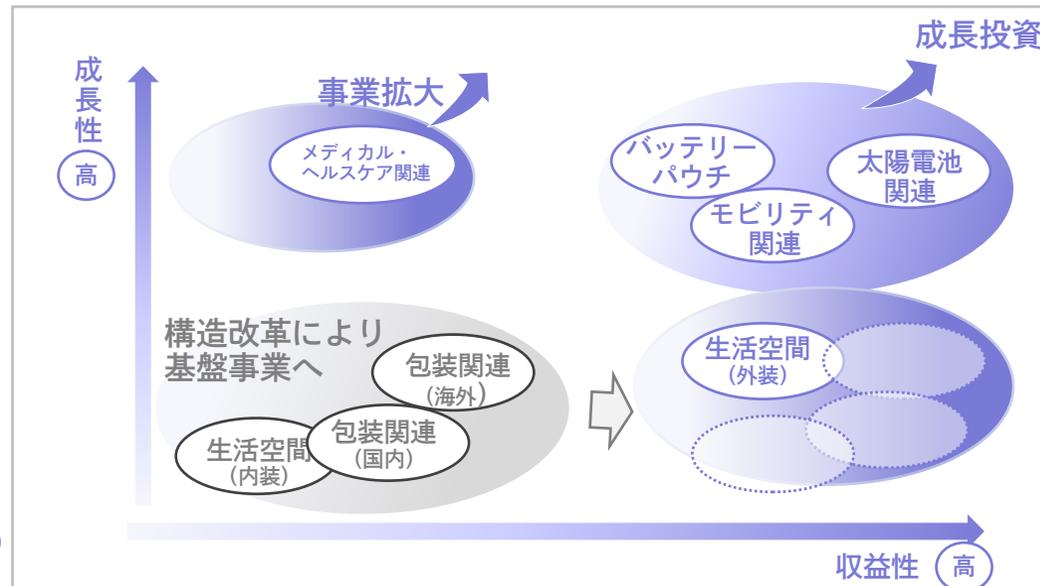
■主な事業の戦略

主な事業セグメント	戦略	
モビリティ・産業用高機能材関連	バッテリーパウチ	車載向けは足元の市況軟化も、中長期の成長トレンドに追随するために必要な投資を継続
	太陽電池関連	高信頼性、高品質を武器とし、米国、欧州の需要増加に対応するための新規設備導入を検討
	モビリティ関連	コアとなる技術のかけ合わせにより、外装用途など差別化商品をグローバルに展開
包装関連	国内	安価材料への切替や納入効率の改善によるコスト削減、原材料等の高騰影響の価格転嫁促進
	海外	モノマテリアルや無菌充填システムについて海外顧客への展開を加速
生活空間関連	内装材	業務効率化や製造拠点最適化を進めるとともに、海外含めて顧客および協業先を開拓
	外装材	インフラや外壁向けへ展開するほか、パートナー戦略でアジア・中国・欧州へ販売エリアを拡大
新規事業	メディカル・ヘルスケア関連	水平分業の業界において、DNPのバリューチェーンを拡げ、原薬/製剤/パッケージでの成長を継続

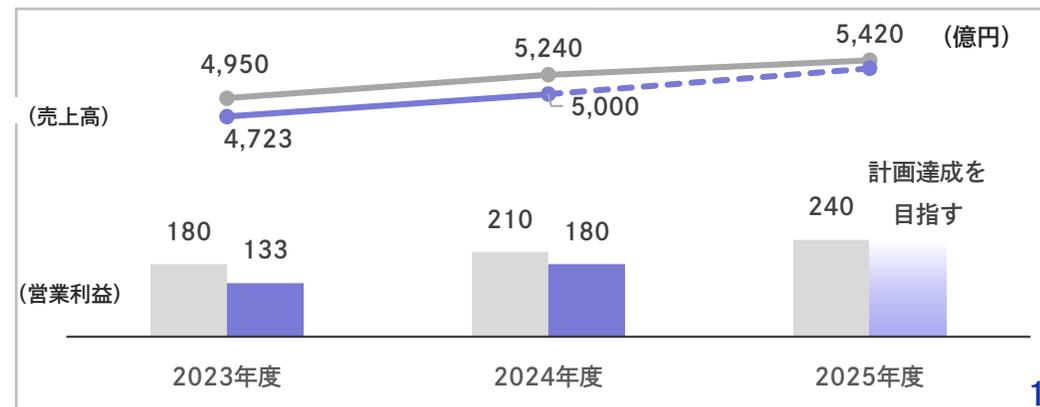
✓成長牽引事業のモビリティ・産業用高機能材関連は市場成長に合わせた事業投資、M&Aの両面を検討

✓包装関連、生活空間関連は強みを持つ製品の海外展開を加速

■ポートフォリオの進化イメージ



■売上高と営業利益

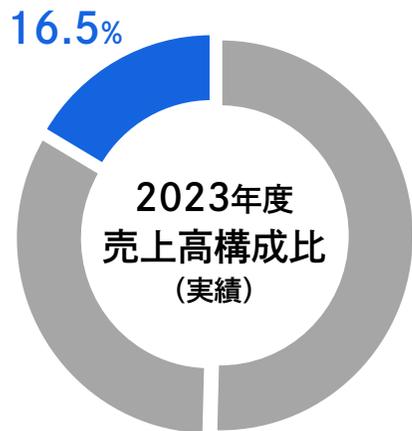


【エレクトロニクス部門】①事業内容



DNP

() 内は売上高



2023年度実績

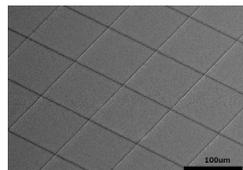
売上高： 2,353億円
 営業利益： 581億円
 営業利益率： 24.7%

デジタルインター
フェイス関連 (約1,730億円)

フレキシブルHCフィルム



透明アンテナフィルム



世界トップシェア



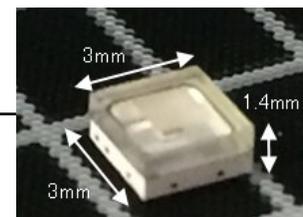
ディスプレイ用光学フィルム
 ・偏光板用機能性フィルム
 ・位相差フィルム など

世界トップシェア

有機ELディスプレイ製造用
メタルマスク

半導体関連 (約620億円)

センサー光源等
で使用



回折光学素子 (DOE)

熱を拡散



ベイパーチャンバー

半導体チップ製造に関わる材料



半導体用回路原版
(フォトマスク)



リードフレーム

【エレクトロニクス部門】②市場環境とセグメント戦略



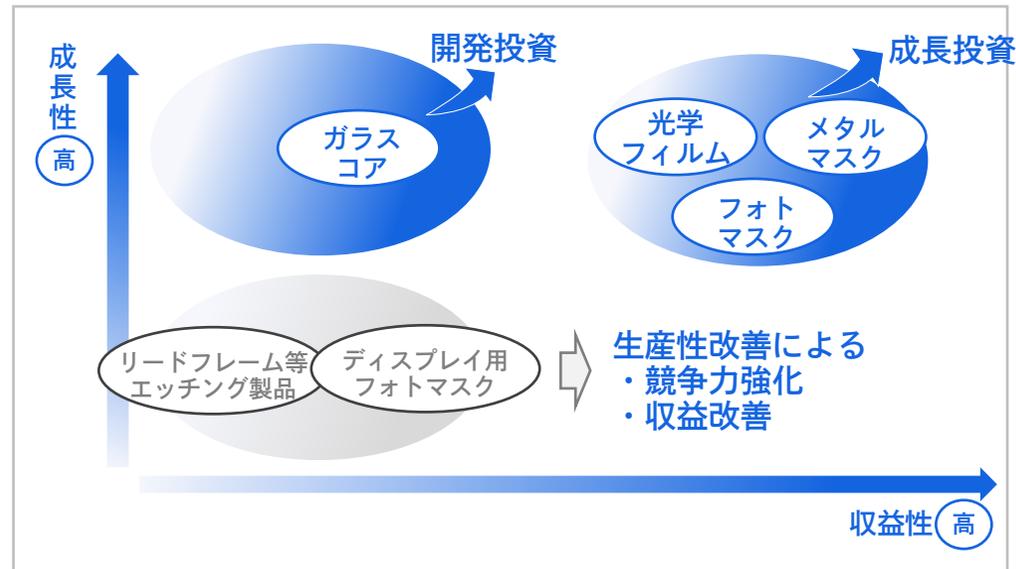
■市場環境と戦略

主な事業セグメント		市場トレンド		市場の見通し※1 (CAGR)
デジタルインターフェース関連	光学フィルム	↗	・主にテレビ向けパネルサイズの大形化に伴う出荷面積の拡大もあり、需要は堅調に推移	+3.2% (23~30年)
	有機ELディスプレイ製造用メタルマスク	↗	・スマートフォンでの有機ELディスプレイ採用拡大に伴い、引き続き需要は堅調に推移	スマホ:+6% タブレット/ ノートPC: +40% (23~30年)
半導体関連	フォトマスク	↗	・製品開発需要に加え、生成AI向けロジック、メモリー用途の半導体市況の需要増加に伴い、中長期的に大きく市場が成長する見込み	外販市場 +8.1% (20~27年)
	リードフレーム	↗	・車載、通信、民生品用途の需要回復が遅れているものの、中長期的には市場成長する見込み	+6.9% (22~29年)

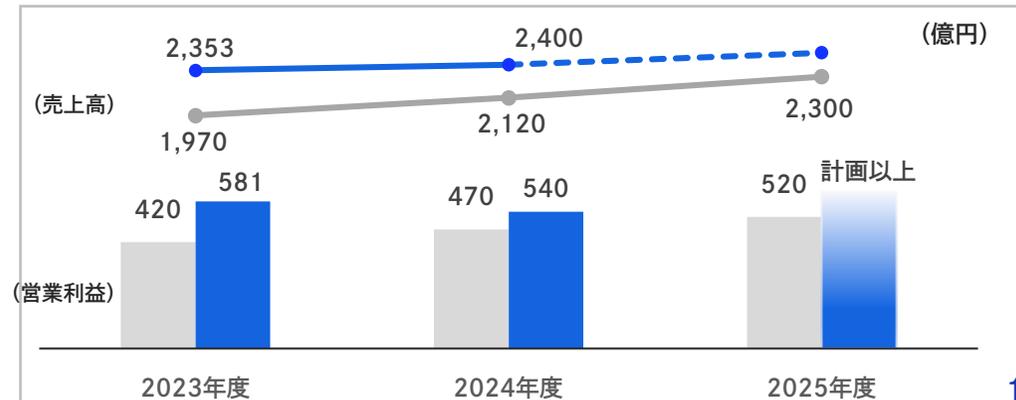
※1 市場の見通しは各種調査をもとにした当社予測

社会的ニーズが高く、DNPのシェアの高い事業に集中投資し、市場成長率を上回る持続的な事業拡大を目指す

■ポートフォリオの進化イメージ



■売上高と営業利益



未来のあたりまえをつくる。

DNP

免責事項

本資料における業績予想及び中期的な経営目標等、将来予想に関する記述は、現時点で入手可能な情報に基づき当社が判断した見通しであり、潜在的なリスクや不確実性が含まれています。そのため、実際の業績は、様々な要因の変化により、これらの将来予想とは異なることがあることをご承知おきください。
記載されている会社名・商品名は、各社の商標または登録商標です。